

氏名	2024年年間業績
上尾信也	<p>「声の復権—中世ヨーロッパにおけるナラティブの記譜と流布」、『紀要〈桐朋学園大学〉』50(2024)、35-54.</p> <p>『国歌—勝者の音楽史』（音楽学叢書）東京：春秋社.</p>
朝治啓三	<p>【論文】</p> <p>「リンカン司教グロステストの修道院巡察」『関西大学文学論集』73-4、2024年3月、47-75頁.</p> <p>「グロステストからヘンリ3世宛書簡」『関西大学東西学術研究所紀要』第57輯、2024年7月、125-154頁.</p> <p>【新刊紹介】</p> <p>David CARPENTER, Henry III: Reform, Rebellion, Civil War, Settlement, 1258-1272, Yale University Press, New Haven and London, 2023, 『西洋中世研究』16、2024.12. pp.153-154.</p>
阿部俊大	<p>【単行本】</p> <p>『スペイン・ポルトガル史研究入門』（共編著、山川出版社）</p> <p>「キリスト教諸国家の確立（11～13世紀）導入」阿部俊大他編著『スペイン・ポルトガル史研究入門』（山川出版社）、41-42頁.</p> <p>「キリスト教諸国家の確立（11～13世紀） 1. キリスト教国家の消長」阿部俊大他編著『スペイン・ポルトガル史研究入門』（山川出版社）、42-53頁.</p> <p>「イベリア半島のマイノリティ 導入」阿部俊大他編著『スペイン・ポルトガル史研究入門』（山川出版社）、164-165頁.</p> <p>「イベリア半島のマイノリティ 1. 中世のマイノリティ（1）モサラベ」阿部俊大他編著『スペイン・ポルトガル史研究入門』（山川出版社）、165-169頁.</p> <p>「イベリア半島のマイノリティ 2. 中世のマイノリティ（2）ムデハル」阿部俊大他編著『スペイン・ポルトガル史研究入門』（山川出版社）、170-174頁.</p> <p>「イベリア半島のマイノリティ 3. 中世のマイノリティ（3）ユダヤ人」阿部俊大他編著『スペイン・ポルトガル史研究入門』（山川出版社）、175-178頁.</p> <p>「スペイン・ポルトガル史全般に関する参考文献」阿部俊大他編著『スペイン・ポルトガル史研究入門』（山川出版社）、218-224頁.</p> <p>「研究ツール」阿部俊大他編著『スペイン・ポルトガル史研究入門』（山川出版社、菊池信彦と共著）、294-314頁.</p> <p>「身分制議会」『西洋中世文化事典』（丸善出版）、62-63頁.</p> <p>【翻訳】</p> <p>ガスパール・フェリウ「14-15世紀のカタルーニャにおける財政、通貨と課税」『文化学年報』（同志社大学文化学会編）73号、27-75頁.</p>
有田豊	<p>【雑誌論文】</p> <p>「8本の詩にみる中世ヴァルド派の教理——「悔悛の奨励」を中心に——」『立命館言語文化研究』（立命館大学国際言語文化研究所）36(1)、115-129頁.</p> <p>「中世期のヴァルド派における聖書理解——教理詩『崇高なる読誦』を例に」『フランス語フランス文学研究』（日本フランス語フランス文学会）125、21-36頁.</p>
有光秀行	<p>『協役たちの西洋史』（鈴木道也との共編著、八坂書房）</p>
池上俊一	<p>『魔女狩りのヨーロッパ史』（岩波新書）</p> <p>「比較史——類似と相違の確認から新たな「発見」へ」今橋映子・井上健監修・編『比較文学比較文化ハンドブック』（東京大学出版会）、26-27頁.</p> <p>「解説 中世の写本には何が描かれていたのか」、オリビア・スウォーサウト（高尾菜つこ訳）『写本で楽しむ奇妙な中世ヨーロッパ』（河出書房新社）、202-203頁.</p>

氏名	2024年年間業績
池田真弓	<p>【単行本（分担執筆）】 『国立西洋美術館所蔵 内藤コレクション写本カタログレゾネ』駒田亜紀子監修、中田明日佳編（国立西洋美術館）L.2015-0044, L.2015-0045, L.2015-0047, L.2015-0046, L.2015-0048, L.2015-0049, L.2015-0050, L.2015-0051, L.2015-0073, L.2018-0007, L.2015-0075, L.2015-0074, L.2015-0076.</p> <p>【雑誌論文】 "Labour-Saving or Labour-Demanding? Replicating the Illuminatikon of the 1459 Durandus." The Library: The Transactions of the Bibliographical Society 25(3), pp. 313-331. 「グーテンベルク聖書の前と後：写本から印刷本への書物彩飾の変遷」『書物を／が構成する宇宙』2023年度極東証券寄附講座「文献学の世界」（慶應義塾大学文学部）69-84頁.</p>
石坂尚武	『サヴォナローラ 時代・生涯・思想』（須藤祐孝の著の編集、ピング・ネット・プレス）
石田隆太	<p>「一なる神と三なるベルソナはそれぞれ個であると言えるのか：神に対する個という概念のスコラ的な適用の一側面」『古典古代学』（筑波大学大学院人文社会科学研究所古典古代学研究室）16、29-41頁.</p> <p>「美が超越概念であることは何を意味するのか：エーコのアキナス理解を手がかりとして」『中世思想研究』（中世哲学会）66、21-35頁.</p> <p>「個体化の全原因を求めて：ボナヴェントゥラ、タランタシアのペトルス、トマス・アキナス」『人文学』（同志社大学人文学会）214、1-24頁.</p> <p>【翻訳】 「ドゥンス・スコトゥス『「命題集」講義録』第2巻第3区分第1部第6問題（第177段落まで）試訳」『筑波哲学』（筑波大学哲学研究会）32、49-62頁.（本間裕之との共訳） 「トマス・アキナス『「魂について」註解』第三巻第八章 試訳」『倫理学』（筑波大学倫理学研究会）39、65-75頁.（高石憲明との共訳） 「トマス・アキナス『定期討論集 悪について』第16問「悪霊について」第4項 試訳」『人文学』（同志社大学人文学会）213、47-73頁.</p> <p>【新刊紹介】 David di DINANT, <i>Mente Materia Dio. Mens Hyle Deus</i>. 『西洋中世研究』（西洋中世学会）16、158-159頁.</p> <p>【新刊紹介】 Franziska VAN BUREN, <i>An Introduction to the Metaphysical Thought of John Peckham: Text and Translations of Selected Quodlibetal Questions and the Summa de Esse et Essentia with Commentary</i>. 『西洋中世研究』（西洋中世学会）16、184頁.</p>
市川佳世子	<p>【単行本（単著・単編著・共著・共編著・分担執筆など）】 ‘The Political Symbolism of the Coronation of the Virgin’ in <i>Dynamics of Artistic Exchange in the Mediterranean: The Medieval and Renaissance Imprint</i>, ed. Charlene Vella (Malta: Midsea Books), pp. 21-46, 97-106.</p> <p>【その他】 「記憶」西洋中世学会編『西洋中世文化事典』（丸善出版）、434-435頁.</p>
伊藤亜紀	『西洋中世文化事典』（分担執筆、西洋中世学会編、丸善出版）

氏名	2024年年間業績
井上智也	「自然の驚異」西洋中世学会編『西洋中世文化事典』（丸善出版）、8-9頁.
今井澄子	<p>【単行本】</p> <p>『西洋中世文化事典』（編集幹事、丸善出版）</p> <p>『ヤン・ファン・エイク史料集成—宮廷・作品・伝記—』（幸福輝・杉山美耶子との共編著、中央公論美術出版）</p> <p>【雑誌論文・研究ノートなど】</p> <p>“Portraits of John the Fearless, Second Duke of Burgundy,” Bulletin of the Research in History and Culture, Osaka Ohtani University 24, pp. 1-18.</p> <p>「ロヒール・ファン・デル・ウェイデン作《フィリップ善良公の肖像》の複製と「ブランド」をめぐる一考察」『言語文化』41、84-104頁.</p> <p>“The Iconography of Coins in the Reign of Philip the Good, Duke of Burgundy,” Kyoto Studies in Art History 3, Money and Medals in/ as Art, pp. 27-42.</p> <p>「疫病と美術—14・15世紀フランスとネーデルラントの物語表現を中心に—」『西洋中世研究』16、95-108頁.</p> <p>【翻訳】</p> <p>『国立西洋美術館所蔵 内藤コレクション写本カタログレゾネ』（共訳、国立西洋美術館）</p>
伊能哲大	<p>【単行本】</p> <p>「小さき兄弟会総長としてのボナヴェントゥラ」小高毅編訳『聖ボナヴェントゥラ著作選集』（教文館）、596-619頁.</p> <p>【雑誌論文・研究ノートなど】</p> <p>「盛期中世までのスティグマ記述とアシジのフランシスコのスティグマ」『聖痕 聖火2024年特別号』（フランシスコ会日本管区）、29-39頁</p> <p>【翻訳】</p> <p>「アシジの聖クララ修道院の修道院長と姉妹たちに宛てた手紙」小高毅編訳『聖ボナヴェントゥラ著作選集』（教文館）、304-305頁.</p>
岩波敦子	<p>【単行本（単著・単編著・共著・共編著・分担執筆など）】</p> <p>『変革する12世紀: テキスト/ことばから見た中世ヨーロッパ』（知泉書館）</p> <p>「ときを記録する 中世ヨーロッパの時間意識と過去—現在—未来」徳永聡子編『神・自然・人間の時間：古代・中近世のときを見つめて』（慶應義塾大学出版会）、55-88頁.</p> <p>「誓約」西洋中世学会編『西洋中世文化事典』（丸善出版社）、74-75頁.</p> <p>「時と祝祭」西洋中世学会編『西洋中世文化事典』（丸善出版社）、162-163頁.</p> <p>「時計」西洋中世学会編『西洋中世文化事典』（丸善出版社）、200-201頁.</p>
印出忠夫	「出産と死」『西洋中世文化事典』、丸善出版、342-343頁.
内川勇太	<p>【翻訳】</p> <p>ブルース・M・S・キャンベル「グローバル気候—13世紀半ばのインドネシア・サマラス巨大噴火とイングランド食糧危機—」『西洋中世研究』16、70-94頁.</p> <p>【新刊紹介】</p> <p>「Rebecca HARDIE (ed.), Æthelflæd, Lady of the Mercians, and Women in Tenth-Century England」『西洋中世研究』16、165頁.</p>

氏名	2024年年間業績
大黒俊二	<p>【雑誌論文】 「ジョヴァンニ・アントニオ・ダ・ファイエ『自伝』をめぐって（２）」『資料学の方法を探る』23、84-91頁.</p> <p>【書評】 D. アブラフィア（高山博監訳）『地中海と人間Ⅰー原始・古代から14世紀ー』『地中海と人間Ⅱー14世紀から現代ー』（藤原書店、2021年）、『西洋史学』（日本西洋史学会）277、53-55頁.</p> <p>【新刊紹介】 Loretta VANDI, Margherita de' Soderini nella storia religiosa del Quattrocento: Reportationes-Excerpta-Richordi, Spoleto, Centro Italiano di studi sull'alto Medioevo, 2023, 『西洋中世研究』16, 42頁.</p> <p>【その他】 「自省と招待の往還から一本書の成り立ちー」 図師宣忠編著『映画で味わう中世ヨーロッパー歴史と伝説が織りなす魅惑の世界ー』 ミネルヴァ書房、1-8頁.</p>
太田原建	<p>【雑誌論文・研究ノートなど】 「フリードリヒ1世・バルバロッサによるゲルンハウゼンの建設ー中世盛期ドイツにおける王宮都市と統治空間の再編成ー」 『言語・地域文化研究』（東京外国語大学大学院総合国際学研究科）30、171-194頁. URL:https://doi.org/10.15026/0002000229</p> <p>【書評・新刊紹介】 「Carolin TRIEBLER, Florian HARTMANN & Rainer-Maria WEISS (eds.), Die Billunger: Die sächsische Herzogsfamilie im Blick aktueller Forschung.」 『西洋中世研究』、16号、183-184頁.</p>
大貫俊夫	<p>【単行本（単著・単編著・共著・共編著・分担執筆など）】 Pastoral Care and Monasticism in Latin Christianity and Japanese Buddhism (ca. 800-1650), Berlin（共編著） 『修道制と中世書物ーメディアの比較宗教史に向けて』（共編著、八坂書房） 『西洋中世文化事典』（共編著、丸善出版）</p> <p>【翻訳（単独訳・共訳）】 「（翻訳）国際研究集会「日欧における中世修道制史研究の過去と現在」」 『人文学報』520(9)、1-25頁</p>
大沼由布	<p>【単行本（単著・単編著・共著・共編著・分担執筆など）】 『西洋中世文化事典』（編集委員、丸善出版） 「インド／オリエント」西洋中世学会編『西洋中世文化事典』（丸善出版）、306-307頁.</p> <p>【書評・新刊紹介】 "Emily Steiner, John Trevisa's Information Age: Knowledge and the Pursuit of Literature, c. 1400." Studies in Medieval English Language and Literature 39, pp. 37-41.</p>

氏名	2024年年間業績
岡北一孝	<p>【単行本（単著・編著・共著・共編著・分担執筆など）】 『西洋中世文化事典』（共著、丸善出版）「町屋と農家」（272-273頁）、「中世建築からルネサンス建築へ」（452-453頁）</p> <p>【雑誌論文・研究ノートなど】 「イタリア・ルネサンスの建築エクフラシス：建築・文学・美術を統合的に考える」、『Arts & Media』、vol. 14、16-35頁。 「建築家がみた15世紀半ばの都市ローマ：アルベルティとジュリアーノ・ダ・サンガッロ」、『日伊文化研究』、第62号、13-24頁。 「再利用の手法の変遷にみるローマ・ルネサンス建築のかたちと物質性」、『カルチュラル・グリーン』、第5号、23-45頁。</p> <p>【書評・新刊紹介】 「Dario Gamboni, Gerhard Wolf, and Jessica N. Richardson (eds.), The Aesthetics of Marble. From Late Antiquity to the Present, Hirmer, Munich」『西洋中世研究』 16、160-161頁 「Elizabeth Merrill (ed.), Creating Place in Early Modern European Architecture, Amsterdam, Amsterdam University Press, 2021」『西洋中世研究』 16、172頁。</p>
尾形希和子	<p>【単行本（単著・編著・共著・共編著・分担執筆など）】 「二股のセイレーンの図像形成に関する一試論」渡邊浩司編『中央大学人文科学研究所研究叢書』80、33-74頁。</p> <p>【書評・新刊紹介】 「アンドレア・バッティステイーニ著 高橋健一訳『バロック 文化、神話、イメージ』」『図書新聞』3627、4面。</p> <p>【その他】 「パンデミックと呪(まじな)い」『學士會会報』988、72-78頁 「中世の宇宙像における風の表象」森結編『知のアトラス 宇宙をめぐる教会と科学の歴史』西南学院大学博物館研究叢書、17頁。</p>
岡本信照	<p>【分担執筆】「コラム：ネブリハ」西洋中世学会編『西洋中世文化事典』（丸善出版）、104頁</p>
小川佳章	<p>【単行本（分担執筆）】 "Fabló un corderuel que era el día nado: un remoto eco del Libro de Alexandre en la leyenda urbana japonesa." Álvaro Bustos (ed.) Poesía clerical y tradiciones medievales, Peter Lang, Berlin-Bruxelles-Chennai-Lausenne-New York-Oxford, pp. 71-76.</p>

氏名	2024年年間業績
小澤実	<p>「刊行にあたって」西洋中世学会編『西洋中世文化事典』（丸善出版）、i-ii頁。 「海」『西洋中世文化事典』、16-17頁。 「一神教（アブラハム宗教）と暦」『西洋中世文化事典』、316-319頁。 「政治思想と中世」『西洋中世文化事典』、570-571頁。 「ツーリズムと中世」『西洋中世文化事典』、574-575頁。 「展覧会とカタログの中の中世」『西洋中世文化事典』、584-585頁。 「中世とグローバルヒストリー」『西洋中世文化事典』、600-601頁。 「北欧中世のルーン魔術」田中千恵子編『西洋文学にみる魔術の系譜』（小鳥遊書房）、62-82頁。 「解説：菅原邦城『北欧神話』（1984）と北欧神話研究」菅原邦城『概説・北欧神話』（ちくま学芸文庫）、356-388頁。 「12章：スウェーデン・ヴァイキングと東方：ユーラシア西部に広がるスウェーデン」村井誠人編『スウェーデンを知るための64章【第2版】』（明石書店）、90-94頁。 「13章：総合芸術としてのルーン石碑：ヴァイキングの美術」『スウェーデンを知るための64章【第2版】』、95-99頁。 「16章：北方のルネサンス：オーラウス・マグヌスの著述活動」『スウェーデンを知るための64章【第2版】』、110-114頁。 「第17章：デンマークの誕生とクヌートと海上支配：グローバルな中世のヴァイキング」村井誠人編『デンマークを知るための70章【第2版】』（明石書店）、104-108頁。 「第18章：海上王国としての中世デンマーク：コペンハーゲンと連合体制」『デンマークを知るための70章【第2版】』、109-113頁。 「第43章：サクソ・グラマティクスの世界：中世ラテン語からデンマーク語へ」『デンマークを知るための70章【第2版】』、231-235頁。 「フェルキッシュ・ルーン学の生成と展開：アリオゾフィー、グイド・リスト、『ルーンの秘密』」前田良三編『彷徨する宗教性と国民諸文化（アジア遊学）』（勉誠社）、205-225頁。 「危機を前にした人間：西洋中世における環境・災害・心性」『西洋中世研究』16、3-7頁。 「巡礼とアルプス」『工芸青花』20、57-59頁。 「ヴァイキングとジェンダー研究：初期中世北欧をめぐる自然科学・考古学・文献史学の展開」『東海史学』58、1-16頁。 ヨハネス・ブライザー＝カペラー「紀元千年転換期におけるグローバルな終末？ビザンツ世界と日本における10-11世紀の気候変動、天体現象、社会的・政治的動乱」『西洋中世研究』16、29-55頁。 「2023読書アンケート」『読書アンケート2023』（みすず書房）、12-13頁。 「西洋中世の世界へ、ようこそ」『NewsPicks『西洋中世文化事典』を楽しむ!!』（online） 「ルーン文字の遍歴：第11回：博物学から近代ルーン学へ：ルズヴィ・ヴィマーと文献学」『研究社WebマガジンLingua』（online） 「ルーン文字の遍歴：第10回：ルーン学の誕生：ヨハネス・ブレウスとオーラウス・ウォルミウス」『研究社WebマガジンLingua』（online） 「『史苑の窓』2023年リーズ国際中世学会に参加して」『史苑』84(1)、1-29頁。</p>
上遠野翔	<p>「三つの神学：サン＝プルサンのドゥランドゥスによる神学の分類をめぐる」『哲学・科学史論叢』（東京大学教養学部哲学・科学史部会）26、1-22頁。</p>
梶原洋一	<p>「学校」西洋中世学会編『西洋中世文化事典』（丸善出版）、164-165頁 「托鉢修道会」『西洋中世文化事典』、282-283頁 「大学での教育」『西洋中世文化事典』、484-485頁 「〔コラム〕ジャック・ル・ゴフ」『西洋中世文化事典』、604頁 [新刊紹介]「Bruno Belhoste, Thierry Kouamé, Boris Noguès & Emmanuelle Picard (eds.), Examens, grades et diplômes. La validation des compétences par les universités du XIIe siècle à nos jours, Paris, Éditions de la Sorbonne, 2023」『西洋中世研究』16、149頁。</p>

氏名	2024年年間業績
加藤政夫	書評「加藤玄『ジャンヌ・ダルクと百年戦争<<世界史リブレット人032>>』」『西洋史学』227、65-67頁.
加藤玄	『西洋中世文化事典』（共編著、丸善出版） ゲルト・クルマイヒ『ジャンヌ・ダルク 預言者・戦士・聖女』（監訳、みすず書房）
加藤磨珠枝	「ユーラシアの展望」『西洋中世文化事典』（丸善出版）、396-399頁. 「西洋中世美術からの再解釈—古代ローマの遺産、ユダヤ、イスラーム」『美術史』197、124頁.
金沢百枝	『キリスト教美術をたのしむ 旧約聖書篇』（新潮社） 「『冬のライオン』とロマネスク美術」 函師宣忠編著『映画で味わう中世ヨーロッパ』（ミネルヴァ書房）、178-196頁.
菊地智	<p>【共著】 Meister Eckhart. In den beginne was het woord: Commentaar bij het Johannesevangelie (Antwerpen, Halewijn), pp. 15-53 (Mitte Gilles vertaling, Satoshi Kikuchi inleiding).</p> <p>【分担執筆】 “Ruusbroec’s Reconsideration of the Human Being as Being Made in the Image of the Trinity,” in « Transformés en son image » (2 Co 3,18) – Théologie et mystique: Mélanges en l’honneur de Marie-Anne Vannier à l’occasion de son 65e anniversaire, ed. Silvia Bara Bancel & Jean Ehret (Turnhout, Brepols), pp. 553-567.</p> <p>【史料紹介】 「16世紀ネーデルラントの神秘主義的論述『福音の真珠』（Die evangelische peerle）—作品の概要と背景、ならびに研究史—」『西洋中世研究』16、127-143頁.</p> <p>【書評】 Rijcklof Hofman, Charles Caspers, Peter Nissen, Mathilde van Dijk, and Johan Oosterman (eds.). Inwardness, Individualization, and Religious Agency in the Late Medieval Low Countries: Studies in the Devotio Moderna and its Contexts. Medieval Church Studies 43. Turnhout, Brepols, 2020 『中世思想研究』66、140-146頁.</p> <p>【事典項目】 「神秘主義」、西洋中世学会編『西洋中世文化事典』（丸善出版）、288-289頁.</p>
菊地重仁	<p>“Monks, monasteries, and pastoral care in the Carolingian age: some remarks on its conditions,” in: Toshio Ohnuki, Gert Melville, Yuichi Akae, & Kazuhisa Takeda (eds.), Pastoral Care and Monasticism in Latin Christianity and Japanese Buddhism (ca. 800–1650) (Vita regularis 84), Münster: LIT, pp. 27-48.</p> <p>「文庫版解説 カール大帝の二つの伝記：カールの記憶の伝達とカールの利用との狭間で」エインハルドゥス、ノトケルス（國原吉之助訳）『カール大帝伝』（ちくま学芸文庫：筑摩書房）、217-242頁.</p> <p>「法記録と立法」西洋中世学会編『西洋中世文化事典』（丸善出版）、54-55頁.</p>
岸田菜摘	"Hagiography of Iconodules' Saints: Representantation of Byzantine Religious Politics." Journal of Western Medieval History 53, pp. 33-63.
北館佳史	「『オバジーヌの聖エティエンヌ伝』試訳（六）」『紀要』（中央大学文学部）301、73-89頁.

氏名	2024年年間業績
城戸照子	「馬と牛」、「食材」、西洋中世学会編『西洋中世文化事典』（丸善出版）、204頁、271頁。
久木田直江	<p>【単行本（単著・編著・共著・共編著・分担執筆など）】</p> <p>The Boke of Gostely Grace: The Middle English Translation and its European Vernacular Contexts, ed. with Anne Mouron, Exeter Medieval Texts and Studies (Liverpool: Liverpool University Press, 2024)</p> <p>“A trefold corde of þe colour of gold from our lordes herte”: Holy Mediatrix and Holy Solidarity in Mechthild of Hackborn’s Boke of Gostely Grace’, in Yoshikawa and Mouron (eds), The Boke of Gostely Grace: The Middle English Translation and its European Vernacular Contexts, pp. 169-86.</p> <p>「医学とジェンダー」『西洋中世文化事典』西洋中世学会編 丸善出版</p>
草生久嗣	<p>“Basil the Bogomil.” Edited By Christian Raffensperger, Erin Thomas Dailey, Portraits of Medieval Europe, 800–1400, Routledge, pp.109-118.</p> <p>「亡命知識人」西洋中世学会編『西洋中世文化事典』（丸善出版）、586-587頁。</p>
工藤義信	<p>【単行本：分担項目執筆】</p> <p>「助言の文学」西洋中世学会編『西洋中世文化事典』（丸善出版）、378-379頁。</p> <p>【その他：オンライン版事典の項目執筆】</p> <p>"Book of the Knight of La Tour Landry." The Palgrave Encyclopedia of Medieval Women's Writing in the Global Middle Ages</p>
久米順子	<p>【単行本（単著・編著・共著・共編著・分担執筆など）】</p> <p>「西ゴート王国」阿部俊大、合田昌史、立石博高、武藤祥編『スペイン・ポルトガル史研究入門』（山川出版社）、17-24頁。</p> <p>【雑誌論文・研究ノートなど】</p> <p>「19世紀スペインにおけるレオン大聖堂：「大修復」工事をめぐって」『東京外国語大学論集』107、21-41頁。</p> <p>【翻訳】</p> <p>駒田亜紀子監修、中田明日佳編集『国立西洋美術館所蔵 内藤コレクション 写本カタログレゾネ』目録翻訳</p> <p>【新刊紹介】</p> <p>「J. Martinez de Aguirre, A. Fuentes Ortiz, V. Rabasco Garcia (eds.), Repensado el canon. Modelos, categorias y prestigio en el arte medieval hispano」『西洋中世研究』6、170-171頁。</p> <p>【その他】</p> <p>〔展示資料解説〕「スペイン中世写本の楽しみ：慶應義塾図書館蔵書を中心に」慶應三田メディアセンター：https://libguides.lib.keio.ac.jp/ld.php?content_id=51888669</p> <p>上記縮小版：「中世の光と影 イベリア写本の愉しみ」東京外国語大学附属図書館 https://www.tufs.ac.jp/library/wp-content/uploads/sites/9/2024/06/commentary-on-the-exhibition.pdf</p> <p>〔事典項目〕「知の視覚化」「イスラーム建築とキリスト教建築」西洋中世学会編『西洋中世文化事典』丸善出版</p>

氏名	2024年年間業績
黒川正剛	<p>【単行本】 『図説魔女狩り（増補改訂版）』（河出書房新社） 「身体の知」西洋中世学会編『西洋中世文化事典』（丸善出版）、250-251頁。 【雑誌論文・研究ノートなど】 「近世サバトの乱行絵巻」『月刊みんぱく』2月号、7-8頁。</p>
桑原夏子	<p>【単行本】 「可視性と不可視性」西洋中世学会編『西洋中世文化事典』（丸善出版）、416-417頁。 「建築とナラティブ」西洋中世学会編『西洋中世文化事典』（丸善出版）、476-477頁。 【翻訳】 アレッサンドロ・ノーヴァ「一六三五年から一六三九年にかけて 博学なる画家としてルーベンスに挑むレンブラントー《ペリシテ人に目を潰されるサムソン》と芸術理論」 『芸術学』（慶應義塾大学三田芸術学会）26/27、32-50頁。</p>
児嶋由枝	<p>"Il chiostro dell'abbazia cistercense di Fontfroide (Aude)", I chiostri nell'area mediterranea tra XI e XIII secolo. Architettura, archeologia, arte, ed. A. Carannante, F. Linguanti, Firenze: Giglio, pp. 280-291. "Japanese seminary paintings in Nagasaki, Macao and Manila", Across the Pacific: Art and the Manila Galleons, ed. C. Onn, Singapore: Asian Civilisations Museum, pp. 146-151.</p>
後藤里菜	<p>【単行本（単著・単編著・共著・共編著・分担執筆など）】 『沈黙の中世史：感情史から見るヨーロッパ』（筑摩書房） 「声と叫び」西洋中世学会編『西洋中世文化事典』（丸善出版）、72-73頁。 【雑誌論文・研究ノートなど】 「女性と身体という危機——12世紀の敬虔な女性，マーキエイトのクリスティーナ（1096頃-1155頃）を題材に——」『西洋中世研究』16、56-69頁。 「西洋中世の羞恥——羞恥の系譜と一二・一三世紀の展開をめぐって——」『西洋史研究』新輯第53号、96-114頁。 【その他】 「2024年度若手セミナー報告「TRPGで中世を語る・演じる・考える ——デジタル・ヒューマニティーズ入門——」参加記1」『西洋中世研究』16、197-199頁。</p>
木場智之	<p>【雑誌論文・研究ノートなど】 至上権と基本法：フランシスコ・デ・ビトリアの法・特免理論(1), 『国家学会雑誌』137巻9,10号, 111-178頁。 至上権と基本法：フランシスコ・デ・ビトリアの法・特免理論(2), 『国家学会雑誌』137巻11,12号,91-159頁。</p>

氏名	2024年年間業績
小林亜沙美	<p>【単行本】 『西洋中世文化事典』（分担執筆「教皇」、丸善出版）.</p> <p>【雑誌論文・研究ノートなど】 「13世紀のドミニコ会士の役割—教皇裁判助手・贖罪者」『就実論叢』53、39-54頁.</p> <p>【翻訳】 「ランペルト・フォン・ヘルスフェルトの『編年誌』1076年の章 邦訳その1」『就実大学史学論集』38、147-165頁.</p> <p>【書評】 「（学会動向）2023年の歴史学界—回顧と展望—：ヨーロッパ（中世—中東欧・北欧）」『史学雑誌』133(5)、323-327頁. "Epistolae Karolini aevi VII. Epistolae variorum 798–923, ed. Isolde Schröder. Monumenta Germaniae Historica. Epistolae (in Quart) 9, Wiesbaden: Harrasowitz Verlag. 2022", Mediaevistik. International Journal of Interdisciplinary Medieval Research 36, pp. 388-390. "Epistole et dicamina Clementis pape quarti. Das Spezialregister Papst Clemens' IV. (1265–1268), ed. Matthias Thumser. Monumenta Germaniae Historica. Briefe des späteren Mittelalters 4. Teil 1, 2 und 3. Wiesbaden: Harrasowitz Verlag. 2022", Mediaevistik. International Journal of Interdisciplinary Medieval Research 36, pp. 474-476.</p>
小林繁子	<p>【単行本（分担執筆・共著）】 「聖女と魔女」（三浦麻美氏との共著）西洋中世学会編『西洋中世文化事典』（丸善出版）、328-331頁.</p> <p>【翻訳（共訳）】 ゲルト・クルマイヒ『ジャンヌ・ダルクー預言者・戦士・魔女』（みすず書房）</p> <p>【書評・新刊紹介】 「書評・池上俊一著『魔女狩りのヨーロッパ史』」『神奈川大学評論』107、186-187頁. 「新刊紹介・池上俊一著『魔女狩りのヨーロッパ史』」『史学雑誌』133(9)、98-99頁.</p>
小宮真樹子	<p>「「イッツ・オンリー・ア・モデル」モンティ・パイソンの描いた中世の魅力」図師宣忠編『映画で味わう中世ヨーロッパ：歴史と伝説が織りなす魅惑の世界』（ミネルヴァ書房）、97-117頁.</p> <p>「西洋中世と日本のサブカルチャー」西洋中世学会編『西洋中世文化事典』（松本涼との共同執筆、丸善出版）、564-567頁.</p>
佐伯(片倉)綾那	<p>【書評・新刊紹介】 「Sophia GERMANIDOU (ed.), Secular Byzantine Women: Art, Archaeology, and Ethnography of Female Material Culture from Late Roman to Post-Byzantine Times.」『西洋中世研究』16、161-162頁.</p>
坂本邦暢	<p>【雑誌論文・研究ノートなど】 (With Yoshi Kato) "Between Reason and Revelation: Petrus van Mastricht's Critique of the Cartesian Doctrine of the Trinity." Reformation & Renaissance Review 26 (2), pp.127-42.</p>
櫻井康人	<p>「貨幣封から見る十字軍国家の社会構造（1099～1192年）」『ヨーロッパ文化史研究』25、49～72頁. 「教皇クレメンヌ4世の十字軍政策（I）」『東北学院大学論集 歴史と文化（旧歴史学・地理学）』69・70、191～21頁.</p>

氏名	2024年年間業績
佐々木博光	<p>【分担執筆】 日本ユダヤ学会、市川裕編『ユダヤ文化事典』丸善出版所収、「ドイツ・ユダヤ人社会の形成・展開（十字軍まで）」50-51頁、「キリスト教の反ユダヤ主義（血の中傷、儀式殺人）」300-301頁、「中世ヨーロッパの高利貸し」436-437頁、「中世後期ドイツの都市」440-441頁、「パンデミックとユダヤ人」568-569頁。</p> <p>【雑誌論文】 「ペストの創作—17世紀ニュルンベルクの3つの歴史作品—」『人文学論集』42、13-30頁。</p>
薩摩秀登	『チェコを知るための60章』（阿部賢一との共編著、明石書店）
佐藤彰一	<p>【単行本】 『ヨーロッパ中世をめぐる問い—過去を理解するとは何か』（山川出版社）</p> <p>【書評・新刊紹介】 Chris WICKHAM, The Donkey and the Boat: Reinterpreting the Mediterranean Economy, 950-1180, Oxford University Press, 2023, 795p.</p>
佐藤公美	<p>【その他】 「山と川」西洋中世学会編『西洋中世文化事典』（丸善出版） 「紛争解決」西洋中世学会編『西洋中世文化事典』（丸善出版）</p>
柴田隆功	<p>【雑誌論文・研究ノートなど】 "Die Vorbilder der sog. Liber Papiensis-Handschriften. Mailand, Biblioteca Ambrosiana, O. 53 sup. und O. 55 sup." Zeitschrift der Savigny-Stiftung für Rechtsgeschichte: Germanistische Abteilung 141 (1), pp. 1-46.</p> <p>【書評・新刊紹介】 「David S. Bachrach, The Foundations of Royal Power in Early Medieval Germany: Material Resources and Governmental Administration in a Carolingian Successor State, Woodbridge, The Boydell Press, 2022, xviii+364p., £75.00.」『西洋中世研究』16、145頁。 「三佐川亮宏訳注『クレモナのリウトブランド『報復の書』／ヴァイセンブルクのアーダルベルト『レーギノ年代記続編』』知泉書館、二〇二三・一〇刊、A5、五五四頁、八〇〇〇円」『史学雑誌』133 (6)、99-101頁。</p>
嶋崎礼	<p>【単行本（単著・単編著・共著・共編著・分担執筆など）】 『ゴシック建築の考古学—トリフォリウムからみる建設技術史』（東京大学出版会） 「材料」西洋中世学会編『西洋中世文化事典』（丸善出版）、454-455頁。</p> <p>【雑誌論文・研究ノートなど】 「ゴシック教会堂の壁内通路への木製足場の固定—近代の修復資料と遺構に現存する横材用の穴から」『日本建築学会計画系論文集』89(816)、390-399頁。 「フランス・ゴシック教会堂におけるトリフォリウムのトレーサリーの石組み—通時的比較の試み」『美史研ジャーナル』（武蔵野美術大学美学美術史研究室）19、68-78頁。</p> <p>【書評・新刊紹介】 「佐藤達生著『ゴシック空間の形成』」『建築史学』83、171-179頁。</p>

氏名	2024年年間業績
嶋田英晴	『ユダヤ文化事典』（市川裕との共編著、丸善） 「聖書と歴史から読み解く ユダヤ人とユダヤ教」『ニューズウィーク 日本版 9月17/24日号』（株式会社CCCメディアハウス）、18-23頁.
甚野尚志	【雑誌論文・研究ノートなど】 「朝河貫一の歴史研究ー「日欧比較封建制論」から「日本人の国民性」の分析へー」『歴史』第142輯、90-96頁.
杉山美耶子	『ヤン・ファン・エイク史料集成ー宮廷・作品・伝記』（幸福輝、今井澄子との共著、中央公論美術出版） 「奉納」西洋中世学会編『西洋中世文化事典』（丸善出版）、422-423頁.
図師宣忠	『映画で味わう中世ヨーロッパー歴史と伝説が織りなす魅惑の世界』（編著、ミネルヴァ書房） 「異端」西洋中世学会編『西洋中世文化事典』丸善出版、284-285頁. 【書評】 「ゲルト・クルマイヒ（加藤玄監訳、小林繁子・安酸香織・西山暁義訳）『ジャンヌ・ダルクー預言者・戦士・聖女』みすず書房、2024年」『図書新聞』第3665号. 【新刊紹介】 「Olivier PONCET, Sylvie DESACHY et Olivier GUYOTJEANNIN (eds.), Figures du notaire dans la France méridionale: Institutions, clientèles et actes (XIIe-XVIe siècle), Paris, École nationale des chartes, 2022, 336p., €34」『西洋中世研究』16号、177頁.
瀧本 佳容子	【分担執筆】 「書簡文学」西洋中世学会編『西洋中世文化事典』（丸善）、358-359頁. 【分担執筆】 「武勳詩」西洋中世学会編『西洋中世文化事典』（丸善）、366-367頁. 【雑誌論文】 「アルフォンソ10世賢王『セテナリオ』ーそのイデオロギーの原型ー」『慶應義塾大学日吉紀要 言語・文化・コミュニケーション』第56号、13-30頁. 【翻訳】 アントニオ・ドニャス「慰めと対話」西洋中世学会編『西洋中世文化事典』（丸善）、356-357頁.

氏名	2024年年間業績
田口正樹	<p>「封建関係」西洋中世学会編『西洋中世文化事典』（丸善出版）、52-53頁。 「法律家」西洋中世学会編『西洋中世文化事典』（丸善出版）、56-57頁。 「皇女・王妃・王女」西洋中世学会編『西洋中世文化事典』（丸善出版）、332-333頁。 「召喚／送達」小川浩三・松本尚子・宮坂渉編著『キーコンセプト法学史—ローマ法・学識法から西洋法制史を拓く』（ミネルヴァ書房）、381-388頁。 "Reichsweistum", in: Albrecht Cordes et al. (Hg.), Handwörterbuch zur deutschen Rechtsgeschichte, Erich Schmidt Verlag, Berlin, Lfg. 32, Sp. 1766-1769. 「中世後期ドイツの帝国集会和法専門家」『国家学会雑誌』137-1/2、1-56頁。 「横川大輔「神聖ローマ帝国における1410年・11年の国王選挙と金印勅書」」『法制史研究』73、300-302頁。 「Hans-Werner GOETZ (ed.), Kontroversen in der jüngeren Mediävistik.」『西洋中世研究』16、163-164頁。 「Thomas WOELKI & Johannes HELMRATH (eds.), Landesherrschaft und Kirchenreform im 15. Jahrhundert: Studien zum zweiten Band der Acta Cusana.」『西洋中世研究』16、189頁。</p>
田島篤史	<p>【翻訳（共訳）】 「イェルク・ヴィクラム『少年の鑑』（1554年）（11）」『独逸文学』第68号、27-41頁。 【その他】 「ザンマライの聖母」『隔月インタビュー』2024年6月号、8-10頁。</p>
田中圭子	<p>【翻訳（単独訳）】 「コンラート・ツェルティスの書簡作成手引 'Tractatus de condendis epistolis' 抄訳」『大分県立芸術文化短期大学研究紀要』61、69-74頁。</p>
田辺清	<p>【雑誌論文】 「バーナード・ベレンソンとアジア—岡倉覚三（天心）との関連について—」『東洋研究』（大東文化大学東洋研究所）233 71-85頁。</p>
津田拓郎	<p>「忘れられた「第三の聖人」——聖シントペルトゥス（8—9世紀）」有光秀行・鈴木道也編『脇役たちの西洋史』（八坂書房）、13-40頁。 「世界史教育と西洋中世」西洋中世学会編『西洋中世文化事典』（丸善出版）、580-581頁。</p>
藤内哲也	<p>リッカルド・カリマーニ『ヴェニスユダヤ人 ゲットーと地中海の500年』（監訳、大杉淳子訳、名古屋大学出版会）</p>
徳永聡子	<p>「教会暦とキャクストン版『黄金伝説』」徳永聡子編『神・自然・人間の時間—古代・中近世のときを見つめて』（慶應義塾大学出版会）、173-188頁。</p>
中川久嗣	<p>「南フランス・ドローーム県中部のロマネスク聖堂（4）」（ドローーム渓谷とディオワ地方・続）『文明研究』（東海大学文明学会）42、23-96頁。 「南フランス・ガール県南部のロマネスク聖堂（3）—プサルモディからソミエール周辺まで」『東海大学紀要 文化社会学部』11、61-87頁。 「南フランス・ガール県北部のロマネスク聖堂（1）—モンミラ、ブリニョンからアレス、サンドラス、ブラヌー=レ=タイヤードまで」東海大学紀要・文化社会学部、12、43-89頁。</p>
長友瑞絵	<p>「西欧中世の修道院と動物寓意テキストについて——Dicta Chrysostomi版フィシオログス写本の分析から」大貫俊夫、赤江雄一、武田和久、苅米一志編『修道制と中世書物—メディアの比較宗教史に向けて』（八坂書房）171-206頁。</p>

氏名	2024年年間業績
中堀博司	<p>【単行本（単著・単編著・共著・共編著・分担執筆など）】</p> <p>「和平・条約・同盟」西洋中世学会編『西洋中世文化事典』（丸善出版）、120-121頁。</p> <p>「フィリップ善良公」西洋中世学会編『西洋中世文化事典』（丸善出版）、278頁。</p> <p>【雑誌論文・研究ノートなど】</p> <p>「旧フランドル伯邸ラ・サル館（リル）の所在地について」『宮崎大学教育学部紀要』102、39-60頁。</p>
中谷惣	<p>「イタリア中世都市における公的司法の利用と裁判外の正義—紛争当事者、地区代表、執政府の平和化の試み」松本尚子編『伝統社会の司法利用—東西比較の可能性—』（大阪大学出版会）43-63頁。</p> <p>「債権回収から高利貸し告発へ—キリスト教社会の信用ネットワークと司法利用」松本尚子編『伝統社会の司法利用—東西比較の可能性—』（大阪大学出版会）133-153頁。</p> <p>"Microcredit in the Shop in Late Medieval Tuscany: A Source of Credit for the Poor." in Paola Avallone, Donatella Strangio (eds.), Different Forms of Microcredit and Social Business: Microfinance in Global History from the Late Medieval to the Modern (Palgrave Macmillan), pp. 27-42.</p>
濱野敦史	<p>「奴隸」西洋中世学会編『西洋中世文化事典』（丸善出版）、202-203頁。</p>
林賢治	<p>「二重修道院の書物-セッカウ修道院の書物係バルンハルト（1140-80/85）の足跡を追って」大貫俊夫・赤江雄一・武田和久・苅米一志編『修道制と中世書物-メディアの比較宗教史に向けて』（八坂書房）、103-126頁。</p>
平野智洋	<p>【資料解題】</p> <p>「クレモナのリウトブランド『報復の書』の翻訳刊行に寄せて—ビザンツ関連の述語注解と補説—」『東海大学紀要文学部』114、41-60頁（三佐川亮宏との共著）。</p> <p>【翻訳】</p> <p>「ミハイル・パナレトス『トラペズスの諸皇帝について』(3)—第86-111章(翻訳・註釈・解説)」『東海史学』58、33-46頁。</p>
福田智美	<p>「近世イングランドにおける有力者の社会ネットワーク分析試論—ロバート・セシルの書簡分析から—」『歴史』第142輯、1-20頁。</p>
藤崎衛	<p>「過去を語る—女教皇伝説と映画」『映画で味わう中世ヨーロッパ—歴史と伝説が織りなす魅惑の世界』図師宣忠編、ミネルヴァ書房、118-142頁。</p> <p>「公会議」「教皇儀礼」『西洋中世文化事典』西洋中世学会編、丸善出版、292-293、520-521頁。</p> <p>「思想と科学」（辻内宣博との共著）『西洋中世文化事典』西洋中世学会編、丸善出版、481頁。</p> <p>「レキラボ『ロミオとジュリエット』」『ETHICS for YOUTH』6、30-31頁。</p> <p>「回顧と展望 編集後記」『史学雑誌』133-5、402頁。</p> <p>「世界史アップデート アビニョン捕囚」読売新聞（夕刊）、2月13日、5面。</p> <p>「Benjamin WEBER (ed.), Crusade: The Uses of a Word from the Middle Ages to the Present」『西洋中世研究』15、186頁。</p>
藤田風花	<p>ユディット・ボルマン「内戦を忘れ去る—近世ヨーロッパにおける調停戦略としての忘却—」『フェネストラ：京大西洋史学報』8、12-26頁。</p>

氏名	2024年年間業績
藤村拓也	「獣帯人間と仲間たち 天体と身体の照応についての覚書」森結編『知のアトラスー宇宙をめぐる教会と科学の歴史』（西南学院大学博物館）、65-69頁。
堀越宏一	【その他】 西洋中世学会編『西洋中世文化事典』（丸善出版）、項目「鍛冶屋（金属加工業）」「鉱山と鉱物資源」
松根伸治	トマス・アキナス『悪について』第14問・食食（翻訳）『アカデミア 人文・自然科学編』27、273-291頁。 「七つの罪源の系譜とトマス・アキナス」『南山神学』47、93-142頁。
松本涼	『【新版】アイスランドサガ』（監修、新潮社）
三木勲	「アルベルティの絵画理論におけるlineamentumとdisegnoの関係性」『京都市立芸術大学美術学部研究紀要』（68）、pp. 61-71。 「アルベルティの建築理論における画家の位置付け」『日本建築学会近畿支部研究報告集. 計画系』（64）、pp. 317-320。 「アルベルティの建築理論における習作模型の位置付け：三大造形芸術統一の観点から」『日本建築学会大会（関東）学術講演梗概集 建築歴史・意匠』（2024）、pp. 667-668。
三佐川亮宏	【単行本（単著・単編著・共著・共編著・分担執筆など）】 「クレモナのリウトブランド『報復の書』の刊行に寄せてービザンツ史関連の術語注解と補説」（平野智洋氏との共著）『東海大学文学部紀要』114、41-60頁。 【新刊紹介】 「Stephan Freund / Pierre Fütterer / Michael Belitz / Alena Reeb (Hrsg.) Thietmar von Merseburg zwischen Pfalzen, Burgen und Federkiel, (Palatium. Studien zur Pfalzenforschung in Sachsen-Anhalt, 7), Schnell & Steiner, 2021. Dirk Jäckel / Lisa Klocke / Matthias Weber (Hrsg.), Thietmar von Merseburg. Historiographie der Grenzwelten, (Studien zur Vormoderne, 4), Peter Lang, 2022.」『西洋中世学』15、159-160頁。
宮崎晴代	【単行本（単著・単編著・共著・共編著・分担執筆など）】 「記譜法」西洋中世学会編『西洋中世文化辞典』（丸善出版）、548-549頁。 【雑誌論文・研究ノートなど】 「パレストリーナの作品：「パレストリーナ様式」の魅力とは何か」『礼拝と音楽』（日本キリスト教団出版局）No.204、10-16頁。 【翻訳】 「ソルミゼーションの歴史」『日本コダーイ協会機関紙』2024年秋号、12-17頁。 【共同監修】 皆川達夫著『ルネサンス古楽の記譜法：白符計量記譜法入門』（日本キリスト教団出版局）
向井伸哉	【雑誌論文・研究ノートなど】 「中世南仏村落における住民自治ーエリートと民衆の関係に注目してー」『歴史学研究』1054、163-171頁。 【その他（報告概要）】 「中世南仏村落における代表選挙：1412年セリニャン村（エロー県）の選挙法改正を中心に」『日仏歴史学会会報』39、51-53頁。

氏名	2024年年間業績
武藤奈月	「古典古代の受容」西洋中世学会編『西洋中世文化事典』（丸善）、354-355頁.
村田光司	<p>「ニキフォロス=ヴリエニオス『歴史』テキストに関する補遺」ニキフォロス=ヴリエニオス（相野洋三訳）『歴史』（悠書館）、243-247頁.</p> <p>「東地中海世界の人の移動」、「ビザンツ学」西洋中世学会編『西洋中世文化事典』（丸善出版）、240-241、588-589頁.</p> <p>"Unveiling the Byzantine Churches of the Laconia Region in Greece: Exploring Landscape Perception Through Visualization" (with Francesca Condorelli, Ryo Higuchi, Elena Ota, Kazufumi Takeda). in M. Valentino et al. (eds.), VL 2024. International Conference on Visualizing Landscape, Alghero: PUBLICA, 840-855.</p> <p>"Was the Supernova of 1054 CE Recorded in Constantinople? A Historical and Astronomical Reassessment" (with Hisashi Hayakawa). De Medio Aevo 13 (1), 63-75.</p> <p>"Analyses for graphical records for a total solar eclipse in 1230 May: a possible reference for the 'Medieval Grand Maximum'" (with Hisashi Hayakawa, Mathew J Owens, Mike Lockwood). Monthly Notices of the Royal Astronomical Society 530 (3), 3150-3159.</p> <p>「長塚安司氏旧蔵のビザンティン聖堂調査資料群——記憶と記録の保存及び活用に向けて」（武田一文との共著）『Waseda RILAS Journal』11、267-278頁.</p>
村松綾	<p>【書評・新刊紹介】</p> <p>「Pamela H. SMITH, From Lived Experience to the Written Word: Reconstructing Practical Knowledge in the Early Modern World」『西洋中世研究』16、180-181頁.</p> <p>【その他】</p> <p>「2023年度若手セミナー報告「西洋中世学研究者のためのデジタル・ヒューマニティーズ入門」参加記2」『西洋中世研究』16、195-196頁.</p>
村松真理子	<p>【その他】</p> <p>『西洋中世文化辞典』（西洋中世学会編、執筆項目 11章書物と文芸「抒情詩」「梓物語」）</p>
森下勇矢	「道化服の機能—『パルチヴァール』にみる愚の象徴—」『西洋中世研究』第16号、109-126頁.
八木健治	<p>『羊皮紙をめぐる冒険』（本の雑誌社）</p> <p>「『羊皮紙』の神秘—『薔薇の名前』写字室からの随想」図師宣忠編『映画で味わう中世ヨーロッパ』（ミネルヴァ書房）、236-247頁.</p> <p>「写本制作」西洋中世学会編『西洋中世文化事典』（丸善出版）、92-93頁.</p>
山辺規子	『西洋中世文化事典』（編集幹事 丸善出版）
弓岡弘樹	<p>【翻訳（単独訳）】</p> <p>ステイーヴン・ヴァンデルブッテン「サン=タルヌール修道院長ジョンの『ゴルズのヨハネス伝』（974-984年頃）における社会的流動性・宗教的刷新・共同体形成」『クリオ』38、43-58頁.</p> <p>【新刊紹介】</p> <p>「メアリー・ウェルズリー著 田野崎アンドレア嵐監訳 和爾桃子訳『中世の写本の隠れた作り手たち——ヘンリー8世から女世捨て人まで——』」『史学雑誌』133(10)、96-97頁.</p>

氏名	2024年年間業績
横山安由美	<p>「中世ロマンスにおける魔術―「思いもよらぬこと」を思う」田中千恵子編『西洋文学にみる魔術の系譜』（小鳥遊書房）、83-97頁。</p> <p>【項目執筆】</p> <p>「愛と結婚」340-341頁、「クリスティーン・ド・ピザン」348頁、「作者とパトロン」152-153頁、『西洋中世文化事典』（丸善出版）</p>
吉川文	<p>【単行本（分担執筆）】</p> <p>「映画の『中の音』と『外の音』」図師宣忠編著『映画で味わう中世ヨーロッパ』（ミネルヴァ書房）、164-174頁。</p> <p>【新刊紹介】</p> <p>「Graeme M. BOONE (ed.), Music in the Carolingian World: Witnesses to a Metadiscipline, Essays in Honor of Charles M. Atkinson.」『西洋中世研究』16、150-151頁。</p> <p>「James COOK et al. (eds.), History as Fantasy in Music, Sound, Image, and Media.」『西洋中世研究』16、156頁。</p>
頼順子	<p>「動物相」西洋中世学会編『西洋中世文化事典』（丸善出版）、12-13頁。</p>
和栗珠里	<p>【雑誌論文】</p> <p>'Trusts as Social Bonds: a Commissaria in Early Modern Venice'（社会的紐帯としての信託―近世ヴェネツィアにおけるコンミッサリアー）『地中海学研究』47, pp.85-102.</p> <p>【新刊紹介】</p> <p>「李美奈著『ヴェネツィアのゲッター ―商館・共同体・コンタクトゾーン―』」『都市史研究』11, p. 130.</p>
渡部武士	<p>「Michel PASTOUREAU, Les couleurs au Moyen Âge: dictionnaire encyclopédique」『西洋中世研究』16、175-176頁。</p> <p>「Michel PASTOUREAU, L'historien face à l'animal: l'exemple du Moyen Âge」『西洋中世研究』16、176-177頁。</p>
渡邊裕一	<p>【単行本（単著・単編著・共著・共編著・分担執筆など）】</p> <p>「自然災害」西洋中世学会編『西洋中世文化事典』（丸善出版）、6-7頁。</p> <p>【書評・新刊紹介】</p> <p>「〈書評〉アンドリュー・ドイグ著『死因の人類史』（草思社）を読む」『図書新聞』3645、1頁。</p> <p>「〈書評〉中澤聡『近世オランダ治水史―「健全なる河川」と側方分水をめぐる知識と権力―』（東京大学出版会）」『西洋史学論集』61、73-77頁。</p> <p>「〈新刊紹介〉佐藤猛・佐々木千佳編『ベストの古今東西―感染の恐怖、終息への祈り（秋田文化出版）』」『史学雑誌』133(2)、88-89頁。</p>
渡辺有美	<p>「聖なる家」（サンタ・カーザ）と巡礼―教皇庁とフランチェスコ会との関係から―」『ヨーロッパ文化史研究』（東北学院大学ヨーロッパ文化研究所紀要）2024年、25巻、73-90頁。</p>